

令和6年度 築瀬小学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画，網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童像含む）

- (1) 基本目標
思いやりの心と自ら学び，正しく判断できる力をもった，知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな児童の育成
- (2) 具体目標（具体的な児童生徒像など）
- ア 自ら学ぶ子（知育）
自ら学び，自ら考え判断し，表現し，主体的に問題を解決する能力を養う。
 - イ 思いやりのある子（徳育）
他を思いやる心や感動する心など，豊かな心を養う。
 - ウ たくましい子（体育）
たくましく生きるための心身の健康と体力を養う。

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

学校教育目標に向け，家庭・地域の願いを踏まえ，児童と職員の共感，共汗，共歓を大切にするとともに，活気あふれる学校，やる気と自己有用感に満ちた児童，信頼される職員を目指すことにより達成を図る。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- (1) やなぜ3つの「共」
- ◇ 共感 ・ 児童の内面を共感的に受け止め，児童理解を深める。
・ 児童と共に，授業や学校行事などにおいて，感動を味わう
 - ◇ 共汗 ・ 児童が考えや意見を出しながら，協働的に学ぶ。
・ 児童と共に，共遊や清掃などにおいて，運動したり働いたりする。
 - ◇ 共歓 ・ 児童が自分を発揮する中で，互いのよさを認めながら育つ。
・ 児童と共に，学習や生活などにおいて，成長を歓ぶ。
- (2) 目指す学校像，児童像，職員像
- ◇ 活気あふれる学校
 - ・ 校務分掌の取組みや家庭・地域との連携を強化し，「ともに進む」のスローガンの基に「教育目標」の具現化を図る。
 - ・ 創意ある提案や意見交換により組織力を強め，学校経営への参画意識を高める。
 - ・ 社会の変化に対応するため，新たなことに挑戦し，明るく前向きな職場をつくる。
 - ◇ やる気と自己有用感に満ちた児童
 - ・ 児童の内面を共感的に受け止め，安心して生活できるよう，一人一人を大切にする。
 - ・ 児童が集団の中で自分を発揮し，他と協働する体験を重ね，一人一人と集団を育てる。
 - ・ 児童のよさや成長を見取り，認め励ます指導により，自己肯定感を高める。
 - ◇ 信頼される職員
 - ・ 安全・安心な環境を整え，人権感覚を磨き，服務規律，業務の効率化を確保する。
 - ・ 家庭や地域の声を聴き，問題点を速やかに改善するなど，誠意ある対応をする。
 - ・ 学校の取組・成果の見える化に向けて情報を積極的に発信し，家庭，地域の理解を得る。

【旭地域学校園教育ビジョン】

「地域に愛される旭っ子」の育成 ～地域との豊かなかかわりを目指して～

4 教育課程編成の方針

- ・ 国，県の法令や指針，市の推進計画，スタンダード，指導の重点などを踏まえ，学校経営方針に基づき，知・徳・体の調和のとれた教育活動を展開し，教育目標の達成を期する。
- ・ 社会の変化へ対応できるよう，教育活動相互の関連や地域の教育資源の活用などにより，知識及び技能，思考力・判断力，表現力等，学びに向かう力や人間性等を育成する。
- ・ 児童や学校経営に関する各種調査結果を，授業や学校経営の改善に生かし，教育活動の見直し，校内外の資源活用など，実態に即した創意ある教育課程の編成につなげる。

5 今年度の重点目標（短期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

- (1) 学校運営
○ 一人一人と集団を育てる教育の実践，組織力・同僚性による効率的な職務の遂行，家庭・地域と一体となった取組の推進などによる，活気のある信頼される学校づくり
- (2) 学習指導
○ 自ら問いを見出し，他者との関わり合いを通して協働的に学ぶ児童の育成
- (3) 児童生徒指導
○ 基本的な生活習慣や判断力を身に付け，相手を思いやり，互いに協調しながら学校生活の向上に努める児童の育成
- (4) 健康（体力・保健・食育・安全）
○ 心身ともに健全で安全な生活を送るための資質・能力を備え，進んで健康・体力の向上を目指す児童の育成

6 自己評価 A1～A20は市共通評価指標 B1～B7は学校評価指標（小・中学校共通，地域学校園共通を含む）

※「主な具体的な取組の方向性」には，A拡充 B継続 C縮小・廃止，を自己評価時に記入

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は，文頭に○印または該当箇所の下線を付ける。

第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画基本施策	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
1ー(1) 確かな学力を育む教育の推進	A 1 児童は，他者と協力したり，必要な情報を集めたりして考えるなど，主体的に学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケートの「私は，学習課題を解決するために，友達と話し合ったり，必要な情報を集めたりしながら，じっくり考え，進んで学習に取り組んでいる。」「児童は，友達と話し合ったり，必要な情報を集めたりしながら，じっくり考え，進んで学習に取り組んでいる。」 ⇒児童，保護者の肯定的回答率 85%以上	① <u>毎時間の授業の中で，学習のめあての提示を工夫し，児童が進んで学習に取り組めるようにする。</u> ② <u>児童が相手の考えと比べたり，分かろうとしたりする姿勢で学習に取り組む聴き方の指導を行う。</u> ③ <u>具体的な操作活動をしたり，情報を収集・選択して思考したりする活動を取り入れる。活動の取組の実践を年計に記入し蓄積していく。</u> ④ <u>グループでの話し合いがスムーズに行えるように話型を示す等の工夫をしていく。</u>	A	【達成状況】 肯定的回答は，児童が 89.9%，保護者が 81.6%であった。保護者の肯定的回答は目標を下回っており，昨年度の数値と比較しても下がっている。 【次年度の方針】 ・学校が日常的に児童の学習に対して取り組んでいる指導が家庭にも伝わるように発信していく。 ・授業参観やオープンスクール時には児童の発表形式だけではなく，普段の授業で行っている児童の学び合いの様子や活動の様子を公開していく。 ・①②③は継続，④はトークタイム等で児童に身に付いてきているため縮小する。
1ー(2) 豊かな心を育む教育の推進	A 2 <u>児童は，思いやりの心をもっている。</u> 【数値指標】 全体アンケートの「児童は，誰に対しても，思いやりの心をもって優しく接している。」「児童は，地域住民に，思いやりの心をもって接している。」 ⇒児童，保護者，地域の肯定的回答率 85%以上	① <u>帰りの会等で，友達のよさを認め励まし合う活動を取り入れることで，互いに思いやりのある行動をしようとする雰囲気高める。</u> ② <u>「やなせフェスティバル」などの縦割り班活動や，「ありがとうの会」などの行事を通して，友達や地域の方々への感謝をもち，思いやりの心の育成を図るため，振り返りの充実を図る。</u>	B	【達成状況】 肯定的回答は，児童が 89.7%，保護者が 91.3%，地域住民が 78.6%であった。地域住民の肯定的回答が目標を大きく下回った。 【次年度の方針】 ・次年度も思いやりの心を高める学級づくりを進めるとともに，児童会活動や学校行事における活動をさらに充実させる。 ・登下校の仕方や放課後の過ごし方など，学校外でも思いやりの心をもって行動できるよう指導を続けていく。 ・登下校中における地域の方々への感謝を込めた挨拶や態度の指導をしていく。

	A 3 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケートの「わたしは、夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」 ⇒児童、保護者の肯定的回答率 80%以上	① 学校行事や児童会活動等にめあてをもって、最後まであきらめずに取り組む態度の育成を図る。振り返りの場면을効果的に設ける。 ② 学習や運動で、自分の取り組みへの継続的な頑張りや伸びが分かるように、カード等の活用を図るとともに、学校便りや学校ホームページ等を活用し児童の継続的な頑張りや伸びを家庭や地域に発信する。	B 【達成状況】 肯定的回答は、児童が 86.4%、保護者が 75.9%であった。保護者の肯定的回答は目標を下回っており、昨年度の数値と比較しても下がっている。 【次年度の方針】 ・生活科や特別な教科道徳の授業の中で、学校や集団生活に慣れることから始まり、学年が上がるにつれて、より具体的に社会や職業を学ぶ機会を増やすなどキャリア教育を充実させる。 ・学校で子供たちが様々な活動に対し、目標を持ち、粘り強く取り組んでいる様子を学校ホームページ等で発信する ・①は継続、②は家庭に更に啓発できるようにしていく。
1- (3) 健康で安全な生活を実現する力を育む教育の推進	A 4 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、健康や安全に気を付けて生活している。」「児童は、学校行事や休み時間等において元気に活動したり、安全に気を付けて生活したりしている。」 ⇒児童、保護者、地域住民の肯定的回答率 80%以上	① 児童一人一人が健康な生活を意識し、手洗いやうがいの励行など習慣化できるよう日々の声かけや委員会活動と関連した掲示物の工夫をする。 ② 安全面に気を付けて生活できるよう、登下校の際の安全な歩き方や、休み時間の過ごし方など学校生活全体で危険を予測して、自ら対応しようとする危ない行動をとらないような意識を育てる。 ③ 保護者や地域住民の方には、引き続き学校での取組を学校ホームページなどを活用して周知していく。	B 【達成状況】 肯定的回答は、児童が 92.3%、保護者が 85.7%、地域住民が 100%であり、目標を達成した。 【次年度の方針】 ・引き続き児童一人一人が健康な生活を意識し、手洗いやうがいを習慣化できるよう日々の声かけや委員会活動を工夫していく。 ・安全面についても、指導を継続して行っていく。 ・必要に応じて、学校での取組を学校ホームページなどを活用して積極的に発信していく。
1- (4) 将来への希望と協働する力を育む教育の推進	A 5 児童は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、互いの良さを生かしながら、進んで意見を発表したり、協力したりして、集団での課題を解決している。」 ⇒児童、教職員の肯定的回答率 80%以上	① 児童のよさや成長を見取り、教職員間で見つけた子供のよさを共有し合い、子供たちを認め励ましていく。 ② 児童の自己存在感、自己肯定感を育てるために、集団の中で自分の役割を果たすことで周りの人から認められるような活動を行っていく。 ③ 係活動では、一人一役を設定するなどして、自己存在感を高めていく学級づくりを行っていく。 ④ 係・当番活動の振り返りを適切に取り入れる。	B 【達成状況】 肯定的回答は、児童が 88.0%、教職員が 93.5%であり、目標を達成した。 【次年度の方針】 ・学校教育目標を常に意識しながらお互いの良さを認める機会を意図的に設定する。 ・係活動では、一人一役を設定するなどして、自己存在感や自己有用感を高める学級づくりを行っていく。

2- (1) グローバル 社会に主体 的に向き合 い、郷土愛 を醸成する 教育の推進	A 6 児童は、英語を使って コミュニケーションして いる。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、 外国語活動（英語）の授業や ALT との交流の際に、英語を 使ってコミュニケーションし ている。」 ⇒児童、教職員の肯定的回答 率 80%以上	① 英単語を使った活動や、先生や友 達とのコミュニケーションを通し て、会話をするための英語表現に慣 れ親しめるようにする。また、児童 が「英語を使っている」と思えるよ うな、声かけやふりかえりを充実さ せる。 ② 階段や各教室等の掲示物を通し て、児童が日常生活の中で英語に 触れる機会を増やす。 ③ 他国における挨拶の掲示資料を作 成して、日常のコミュニケーション に生かせるようにする。 ④ 授業のみならず、休み時間を始め 諸活動の中で A L T から積極的に コミュニケーションをとってもら うようにしていく。	【達成状況】 肯定的回答は、児童が 86.7%, 教職員が 96.8%であり、目標を達成した。 【次年度の方針】 ・昨年度に引き続き、授業のみならず、 休み時間を始め諸活動の中で A L T か ら積極的にコミュニケーションをとっ てもらうようにしていく。 ・多くの児童が「英語を使っている」と 思えるような、声かけや振り返りを充実 させる。
	A 7 児童は、宇都宮の良さ を知っている。 【数値指標】 全体アンケートの「私は、宇 都宮の良さを知っている。」 ⇒児童、教職員、保護者の肯 定的回答率 80%以上	① 宇都宮の知識を深め、宇都宮のよ さを知ろうとする態度を育成する。 ② 築瀬地区や宇都宮市に係る資料や ニュースを掲示するコーナーを設 け、地域のよさを知る環境を整え る。 ③ 保護者や地域に向けて、児童の学 習した内容や取り組みを学校だよ りや学校ホームページによる広報 活動を継続的に発信していく。	【達成状況】 肯定的回答は、児童が 87.7%, 教職員が 93.5%, 保護者が 71.3%であった。保護 者の肯定的回答は目標を下回っており、 昨年度の数値と比較しても下がっている。 【次年度の方針】 ・児童が学習した内容を家庭に伝えたり、 校内に掲示・発信したりする活動を行 っていく。 ・授業参観やオープンスクール時に宇 都宮学の授業を公開する。 ・児童の学習した内容や取り組みを学 校だよりや学校ホームページで発信し ていく。
2- (2) 情報社会と 科学技術の 進展に対応 した教育の 推進	A 8 児童は、デジタル機器 や図書等を学習に活用し ている。 【数値指標】 全体アンケートの「私は、パ ソコンや図書等を学習に活用 している。」 ⇒児童、教職員、保護者の肯 定的回答率 80%以上	① 図書室を計画的に利用し調べ学習 の際には、図書室を意図的に活用 し、課題解決のための本の選択・収 集する力を育む。 ② タブレットを使う機会を意図的に 設けたりして、児童の I C T 機器の 活用技術を高められるようにする。 ③ 調べたことや自分の考えをまと める際、I C T 機器を活用し、相互 に共有、比較、修正するなど、書く 力の向上を図る。 ④ 授業補助として I C T 支援員を活 用したり、必要に応じて校内研修を 行ったりすることで、児童の技能及 び教職員の I C T 機器の活用技術 の向上を図る。 ⑤ 学年たよりや学校ホームページ等 を通して、授業や行事などでデジ タル機器や図書等を活用している 様子など、児童が I C T 機器を活 用している様子を発信していく。	【達成状況】 肯定的回答は、児童が 90.2%, 教職員が 96.8%, 保護者が 81.5%であった。目標 は達成した。 【次年度の方針】 ・授業や行事などでデジタル機器や図 書等を活用している様子を、説明ととも に各種だよりや学校ホームページ等を 通して、発信していく。 ・司書教諭とより一層連携し、図書委員 会のイベント等も実施することで、図書 室の利活用を活性化していく。

2- (3) 持続可能な社会の実現に向けた担い手を育む教育の推進	A9 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 全体アンケートの「わたしは、みずやでんきをたいせつにしたり、しょくぶつやどうぶつをたいせつにしたりしている。」 ⇒児童、教職員の肯定的回答率 80%以上	① 環境委員会の活動を通して、全校生で主としてペットボトルキャップの回収を行ったり、日々の生活の中での節電や節水を呼びかけたりすることで、環境を大切にしようとする意識を高める。 ② 社会科や家庭科、総合的な学習の授業で、環境問題や環境を守る学習を行い、実践に向けての知識の定着を図る。 ④ 身近な給食指導において食育の視点を生かして、健康や食料の大切さに対する意識を高める。 ⑤ 「持続可能な社会」に向けて、児童会活動を中心に学校で行っている環境に配慮した取り組みの周知を行う。 ⑥ 学校で行っている環境に配慮した取り組みを学校だよりや学校ホームページで周知し、地域も含め学校全体の関心を高める。	【達成状況】 肯定的回答は、児童が 89.9%、教職員が 90.3%であり、目標を達成した。 【次年度の方針】 ・児童会活動では、様々な委員会活動を通して、環境を大切にしようとする取組や呼びかけを行い、児童の意識を高めていけるようにする。 ・各委員会の取組をもとに、日頃の学級指導にも生かしていく。 ・引き続き、身近な給食指導において食育の視点を生かし、健康や食料の大切さに対する意識を高める。 ・①は⑤の具体例のため削除する。
3- (1) インクルーシブ教育システムの充実に向けた特別支援教育の推進	A10 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 全体アンケートの「教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。」 ⇒教職員の肯定的回答率 80%以上	① <u>特別な支援を必要とする児童の共通理解を図る場を設け、全職員が児童の実態を把握する。</u> ② <u>関連する資料を提供するなどして、特別な支援の在り方についての理解を深める。</u> ③ <u>担任の困り感などに応じて支援委員会を開催し、かがやきルームや日本語教室の活用を図っていく。</u> ④ <u>教材研究を進め、児童一人一人に合った授業支援の在り方を実施するとともに、必要に応じてかがやきルームや日本語指導教室の活用を検討する。</u>	【達成状況】 教職員の肯定的回答は、100%であり目標を大きく上回った。 【次年度の方針】 ・昨年度に引き続き、支援を必要とする児童の共通理解を図る場を設けたり、全職員が児童の実態を把握したりする。 ・担任の困り感などに応じて校内支援委員会を開催し、かがやきルームや日本語教室の活用を図っていく。

3- (2) いじめ・不登校対策の充実	A11 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 全体アンケートの「学校は、いじめ対策に熱心に取り組んでいる。」「学校は、いじめの未然防止・早期発見に向けた取組を発信したり、地域に見守りを依頼したりするなど、地域と連携している。」 ⇒児童、保護者、地域の肯定的回答率 85%以上	① いじめゼロ強調月間での取組を通し、いじめが許されない行為であることを指導するとともに、年2回の教育相談を実施し、児童の悩み等をきめ細かに把握し解決を図る。いじめ根絶集会を児童参加型にするなどの実施方法を検討する。 ② 学級懇談時や学年たより等を通し、学校の取組「いじめのない環境づくり」を保護者に伝え協力を得るとともに、保護者や児童の思いを十分に受け止め、強い意志をもって指導に当たる。 ③ いじめゼロに向け、家庭、地域と協力して取り組めるよう、学校での取り組みや活動の様子、児童への指導に関する情報をさくら連絡網や学校ホームページなどを活用して家庭や地域住民へ積極的に発信していく。	【達成状況】 肯定的回答は、児童が 95.4%、保護者が 78.4%、地域住民が 92.9%であった。保護者の肯定的回答は目標を下回っており、昨年度の数値と比較しても下がっている。 【次年度の方針】 ・いじめゼロに向け、家庭、地域と協力して取り組めるよう、学校での取り組みや活動の様子、児童への指導に関する情報をさくら連絡網や学校ホームページなどを活用して家庭や地域住民へ積極的に発信していく。 ・令和6年度の取組を継続していくと同時に、家庭との連携を図り、児童の悩みや小さな変化などをとらえ対応していく。 ・保護者との情報共有を密にしていく。電話での連絡や連絡帳、必要に応じて家庭訪問や来校による面談を行っていく。
	A12 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 全体アンケートの「先生方は、一人一人を大切に、児童がともに認め励まし合うクラスをつくってくれている。」 ⇒児童、教職員、保護者の肯定的回答率 85%以上	① 児童間のよりよい関係づくりのために、Q-U や教育相談について校内で研修を行い、それらを生かした学級経営を実施する。 ② 欠席が続く児童に対して、電話や家庭訪問を行うとともに、関係機関やスクールカウンセラー等とも連携を図り、児童に適したアプローチを継続的に行う。 ③ 児童が抱える問題について関係職員で情報を共有した後に、職員全体でも共通理解を図り学校全体で児童の指導にあたる。 ④ 保護者や関係機関等と連携を図りながら、それぞれに適したアプローチを継続的にやっていく。	【達成状況】 肯定的回答は、児童が 94.1%、教職員が 96.8%、保護者が 86.4%であり目標を達成した。 【次年度の方針】 ・児童が抱える問題について早期発見に努めたり、関係職員間で情報を共有した後に職員全体でも共通理解したりしていく。 ・引き続き保護者や関係機関等と連携を図りながら、それぞれに適したアプローチを行っていく。
3- (3) 外国人児童生徒等への適応支援の充実 3- (4) 多様な教育的ニーズへの対応の強化	A13 学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。 【数値指標】 全体アンケートの「教職員は、児童の悩みに寄り添い、相談に乗ったり、問題の解決に努めたりして、児童生徒が明るくいいきと学校生活を送れるようにしている。」「学校行事等において、様々な立場の児童が、互いを尊重し合って活動を行っている。」 ⇒児童、保護者、地域の肯定的回答率 85%以上	① <u>児童一人一人の話をよく聞いた</u>り、<u>帰りの会等で児童同士がよさを認め合う場を意図的に設定したりして、互いに認め励まし合う集団づくりを図る。</u> ② <u>運動会やなぜフェスティバル、ふれあい活動、ありがとうの会、音楽集会等にて児童が主役となって活躍する場を設定し、達成感や成就感、思いやりの心を育む。思いやりの心の育成につながるよう、全校への目的の発信や振り返りの工夫を試みる。</u>	【達成状況】 肯定的回答は、児童が 93.9%、保護者が 87.5%、地域住民が 100%であり、目標を達成した。 【次年度の方針】 ・「やなぜフェスティバル」や「ありがとうの会」が、思いやりの心の育成につながるよう、全校への目的の発信や振り返りを行う。 ・児童同士がよさを認め合う場を意図的に設定したり、教職員が児童のよさを認める言葉がけをしたりすることで、互いに認め励まし合う集団になるように指導していく。

4- (1) 教職員の資 質・能力の 向上	A14 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 全体アンケートの「教職員は、児童一人一人が理解できるように教材を工夫するなど、きめ細かな指導をしている。」 ⇒児童・保護者の肯定的回答率 80%以上	① 校内研修を計画的・継続的に実施するとともに、互いの授業を見合い、意見を交換し合いながら、授業力の向上を目指す。 ② 今年度の学校課題「社会への関心を高め、他者とともに追究し合い、主体的な学びができる児童の育成～社会的な見方・考え方を働かせて、問いを追究し合う社会科学習～」を図るために、児童の実態を把握するとともに児童一人一人がめあてをもち、主体的・協働的な学習に取り組めるよう工夫する。 ③ 学力調査等の結果活用や日常の姿から、基礎・基本の習得が必要な個別の指導体制を整えていく。 ④ 実際に行っている授業実践の様子や工夫等も学校ホームページで発信していく。	【達成状況】 肯定的回答は、児童が 93.4%、保護者が 82.7%であり、目標を達成した。 【次年度の方針】 ・授業参観やオープンスクールでは、普段の授業を公開する。 ・②については令和7年度の研究内容に沿ったものに変更する。 ・どの教科においても児童の実態を把握するとともに、児童一人一人がめあてをもち、主体的・協働的な学習に取り組めるよう工夫する。
4- (2) チーム力の 向上	A15 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケートの「学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。」 ⇒教職員の肯定的回答率 85%以上	① 学校図書館司書、ALT と事前打合せや事後の振り返りを共に行う時間を設けることで、より効果的な授業を目指す。 ② かがやきルーム指導担当、スクールカウンセラーとの連携を図り、児童理解や効果的な学習法を共に模索していく。 ③ 教職員のたて割りのチームを編成し、課題検討や互いに情報交換をするなど、同僚性を高め合う。	【達成状況】 教職員の肯定的回答は、100%であり目標を大きく上回った。 【次年度の方針】 ・今後も職員間での報連相を徹底し、深い児童理解や質の高い授業の展開に努めていく。 ・教職員の縦割りチームによる活動をさらに活性化し、さらなる同僚性の向上に努める。
4- (3) 学校における働き方改革の推進	A16 勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケートの「私は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。」 ⇒教職員の肯定的回答率 80%以上	① 学校行事や児童会行事、学年行事ごとの反省をもとに、業務の効率化について、できることを教職員間で考え、学校・学年・児童会等の行事を精選したり、より学習効果が効率よく実施できるよう、改善したりする。 ② 教職員一人一人が、勤務時間を意識し、計画的に業務を行うとともに、毎月、学校全体または学年でリフレッシュデーを設定し、時間を意識しながら勤務する。 ③ 会議や打合せの時間の終了時刻を決めて協議内容を必要最低限に抑えたり、ミライムの掲示板等を利用したりして、時間短縮を図る。 ④ さくら連絡網を活用し、保護者に向けた連絡を精選することで、仕事の効率を図る。	【達成状況】 教職員の肯定的回答は、96.8%であり目標を大きく上回った。昨年度の数値と比較すると 18%上回った。 【次年度の方針】 ・学校・学年・児童会等の行事の反省を生かし、行事の精選や内容の見直しを通して、次年度の計画に生かし実施していく。 ・さくら連絡網を活用し、保護者に向けた連絡を精選することで、仕事の効率化を図る。 ・業務の効率化について、できることを教職員間で考え、実践していく。 ・業務の効率化を通し、教材研究や児童と向き合う時間の確保に努める。

5- (1) 全市的な学校運営・教育活動の充実	A17 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 全体アンケートの「学校は、児童や教職員の交流、小中一貫教育カリキュラムの作成・見直しなど、小中一貫教育・地域学校園の取組を行っている。」「学校は、小学生と中学生の交流の場をつくったり、掲示物で互いの学校の情報を伝え合ったりする小中一貫教育・地域学校園の取組を行っている。」 ⇒児童、保護者、地域の肯定的回答率 80%以上	① <u>小学校への乗り入れ授業や児童生徒指導連絡協議会等の実施を通して、児童・生徒の情報交換を行うとともに、学習内容・指導法等の理解を深める。</u> ② <u>卒業生の積極的な行事等への参加を通して、児童の中学校進学への不安感を減らしたり、地域学校園としての所属感を高めたりする。</u> ③ <u>運動会や小中合同あいさつ運動などの行事において、卒業生と本校児童と一緒に活動できる場面を増やすなどの工夫をしていく。</u> ④ <u>学校便りや学校ホームページを通して、保護者や児童に向けて「旭地域学校園」の目標や具体的な取組を周知していく。</u>	【達成状況】 肯定的回答は、児童が 86.1%, 保護者が 77.0%, 地域住民が 92.3%であった。保護者の肯定的回答が目標を下回った。 【次年度の方針】 ・①②③④の取組を継続して行っていく。 ・学校だよりや3共通信などに小中一貫コーナーを作るなど、取組を広く周知していく。
5- (2) 主体性と独自性を生かした学校経営の推進 5- (3) 地域と連携・協働した学校づくりの推進	A18 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。 【数値指標】 全体アンケートの「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。(魅力ある学校づくり地域協議会、学校支援ボランティア、企業等、地域の教育力を生かした教育活動など)」 ⇒保護者・地域住民の肯定的回答率 80%以上	① <u>築瀬地区の各種団体や魅力ある学校づくり地域協議会等の活動を通して、学校と家庭・地域が連携し、地域の教育力を生かした教育活動の充実を図る。</u> ② <u>出前授業や夢授業など、地域の人材や企業等と連携した活動を取り入れることで、キャリア教育の充実を図る。</u> ③ <u>低・中学年においても土曜授業などの機会に、企業による出前授業や学校支援ボランティアの参画を積極的に取り入れ、地域の教育力を生かした教育活動の充実を図る。</u>	【達成状況】 肯定的回答は、保護者が 90.5%, 地域住民が 100%であり、目標を達成した。 【次年度の方針】 ・①②③の取組を継続して行っていく。 ・①については、令和7年度からボランティア活動をさらに充実させていく。
6- (1) 安全で快適な学校施設整備の推進	A19 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。(校内の施設、設備、駐車場など)」 ⇒保護者・地域住民の肯定的回答率 80%以上	① 教職員による毎月1回の定期環境点検の他、随時異状があった場合には早期発見・早期対応に努める。また、管理職に報告し、危険箇所に対して修繕・撤去等の対策を講じる。 ② 長期休みや行事前の特別清掃 PTA 親子奉仕活動・教職員による環境点検等、安全な環境づくりに向けて活動する。 ③ 清掃活動には、気働きの心で時間いっぱい自ら取り組むよう働きかける。 ④ 保護者や地域住民の方々に対して、学校での取組みをさらに周知するために、学校だよりや学校ホームページなどを活用していく。	【達成状況】 肯定的回答は、保護者が 83.9%, 地域住民が 84.6%であり、目標を達成した。 【次年度の方針】 ・「大きくとらえて小さくもとめる」というスタンスのもと、定期点検や日常の点検を通して、危険箇所の早期発見・早期対応に努め、引き続き安全に配慮した環境づくりを徹底していく。 ・危険箇所は早急に管理職に報告し、修繕・撤去等の対策を講じる。 ・安全に関する学校での取り組みを学校だよりや学校ホームページなどを活用して発信していく。 ・児童の持ち物や教材など、日頃から校内の整理整頓に努め、安全が確保されるような平常時の児童指導を徹底する。

6- (2) 学校のデジ タル化推進	A20 コンピュータなどのデ ジタル機器やネットワー クの点から、授業（授業 準備も含む）を行うため の準備ができています。 【数値指標】 全体アンケートの「私は、授 業（授業準備を含む）や業務 に、デジタルを積極的に活用 している。」 ⇒教職員の肯定的回答率 80%以上	① ICT活用に関する研修に参加す ると共に、研修で得た情報を教職員 で共有できるようにする。 ② ICT機器をより効果的に活用 できるように、ICT支援員を講師 としての研修会や情報主任等を講師 としての校内でのミニ研修を計画的 に行う。 ③ 校内のデジタル機器の管理やネ ットワーク環境の整備を行い、使い やすい職場環境を整える。	【達成状況】 教職員の肯定的回答は、100%であり目 標を大きく上回った。 【次年度の方針】 ・引き続き教職員の力量を高めるため の校内外の研修に力を入れていく。 ・ICT機器が使いやすい職場環境を 維持していく。
小・中学 校、地域 学校共 通、本校 の特色・ 課題等	B1 児童は、時と場に応じ たあいさつをしている。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、 時と場に応じたあいさつをし ている。」 ⇒児童、保護者、地域住民の 肯定的回答率 80%	① 年間を通して、代表委員や学級ご との「心のこもったあいさつ運動」 を設定することで、あいさつに対す る意識付けを図る。 ② 登下校時等校外においても元気 にあいさつできるよう、教職員が率 先してあいさつを行う。保護者・地 域・中学生・旭地域学校園教職員、 地域協議会委員などと連携を図り、 あいさつ運動を実施する。 ③ 「あいさつ運動」に向けて標語募 集。 ④ あいさつ運動やあいさつに関する 日頃の様子について、懇談会や三共 通信、学校ホームページなどで発信 していく。	【達成状況】 肯定的回答は、児童が 89.5%, 保護者が 77.4%, 地域住民が 85.7%であった。保 護者の肯定的回答が目標を下回った。 【次年度の方針】 ・全職員共通理解のもと、教職員が率先 してあいさつを行う。また、児童を認め 励ましていくことで、あいさつの習慣化 を図る。 ・あいさつ運動を通年でを行い、児童 自 身があいさつをする大切さや気持ちよ さを体感し、地域においてもあいさつの 日常化を図っていく。 ・あいさつ運動やあいさつに関する日 頃の様子について、懇談会や3共通信、 学校ホームページなどで発信していく。 ・あいさつ運動の実施方法を再検討し ていく。
	B2 児童は、きまりやマ ナーを守って、生活 をしている。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、 登下校での交通ルールなど、 きまりやマナーを守って、生 活をしている。」 ⇒教職員、保護者、地域の肯 定的回答率 80%以上	① 「築瀬小学習のきまり」を活用 し、学習準備・姿勢・鉛筆の持ち方・ 返事・片付け等、学習を支える技能 や態度の徹底指導に努める。 ② 「築瀬小よい子の一日」を活用し、 学校生活のきまりについて教職員が 同歩調で継続的な支援に努める。 ③ 「立腰」に取り組み、落ち着いて 学校生活を始められるように努め る。	【達成状況】 肯定的回答は、教職員が 90.3%, 保護者 が 89.9%, 地域住民が 78.6%であった。 地域住民の肯定的回答は目標を下回っ ており、昨年度の数値と比較しても下が っている。 【次年度の方針】 ・全職員が同歩調で児童指導ができ るよう、年度初めの共通理解を十分に行 う。 ・基本的生活習慣に関しては、学校内外 できまりやマナーなどを守るように 学校教育活動全体を通して根気強く指 導していく。 ・様々な機会を通して、学校での取り組 みを地域へ発信していく。 ・地域の声や意見が聞ける機会を増や していく。

B 3 保護者との信頼関係が築かれ、家庭との連携が図られている。 【数値指標】 全体アンケート「学校は、保護者と連絡を密にしながら、指導に当たっている。」 ⇒児童、保護者の肯定的回答率 80%	① 保護者との信頼関係が保てるよう、児童のよい面やよくなったこと、できるようになったこと等を連絡帳や電話・家庭訪問等で保護者に積極的に伝えるよう努める。 ② 児童の問題行動等については、迅速な対応のために「報・連・相」を行い、組織を機能させ、家庭と連携しながら解決に当たる。 ③ 授業参観、保護者懇談会を通して児童の成長や学校生活における問題点や改善点等を話し合うことで連携を深めていく。	【達成状況】 肯定的回答は、児童が 87.5%、保護者が 78.5%であった。保護者の肯定的回答が目標を下回った。 【次年度の方針】 ・児童の様子を見取り、よい面やよくなったこと、できるようになったことなどを積極的に連絡帳や電話で伝えていく。 ・授業参観、保護者懇談会を通して、学校生活における問題点や改善点等を話し合うことで、連携を深めていく。
B 4 児童は自己存在感をもって、居がいのある学校・学級で過ごしている。 【数値指標】 全体アンケート「自分の学級は居心地がよいと思う。」 ⇒児童、保護者の肯定的回答率 85%	① 学校教育目標を常に意識しながら、お互いの良さを認める機会を意図的に設定するなどして、自己存在感を高めていく学級づくりを工夫する。 ② 児童会活動や学級活動の中で、多くの児童が活躍できる場を意図的に設け、お互いの良さを認める機会を設定するなどして、自己存在感を高めていく活動を工夫し行っていく。 ③ 道徳の授業において、ICT を有効活用し、自分の考えを伝え合う活動の充実を図る。 ④ 児童同士の関わりを深め、学校生活においてより良い人間関係を築いていけるよう学校活動の工夫を図る。	【達成状況】 肯定的回答は、児童が 89.9%、保護者が 84.1%であった。保護者の肯定的回答が目標を下回った。 【次年度の方針】 ・児童会活動や学級活動の中で、多くの児童が活躍できる場を意図的に設け、お互いのよさを認める機会を設定する。 ・係活動や当番活動を通して、自己存在感を高める学級づくり、学年づくりに努める。 ・③については道徳に限らず、どの授業においても自分の考えや思いを積極的に伝えることで、児童同士の関わりを深め、心理的安全性を確保することで、学校生活においてより良い人間関係を築いていけるようにする。
B 5 思いっきり遊んだり、自分の健康に対する関心を深めたりして、健康的な生活をしている。 【数値指標】 全体アンケートの「自分は、休み時間等思いっきり遊んだり、自分の健康に関心をもったりして生活をしている。」 ⇒児童、保護者の肯定的回答率 80%以上	① 校庭での遊びの約束を守り、ロング昼休み等を活用して「思いっきり遊ぼう活動」を推進し、友達との外遊びを継続的に奨励する。 ② 休み時間の外遊びに関して、運動委員会の児童を中心とした活動の企画を引き続き行い、運動に親しむ機会を多く設ける。 ③ 保健便りを毎月 1 回発行して、健康・衛生面を含め、健康に対する関心や家庭の意識の高揚を図っていく。また、養護教諭と連携を図った保健学習を計画的に実施し、充実させていく。	【達成状況】 肯定的回答は、児童が 88.0%、保護者が 86.9%であり、目標を達成した。 【次年度の方針】 ・休み時間の外遊びに関して、運動委員会を中心とした活動を来年度も行っていく。 ・「思いっきり遊ぼう活動」を推進し、友達との外遊びを継続的に奨励する。 ・ロング昼休みの共遊時間の活用や体育館の活用など、活動の仕方を工夫し、教職員が児童とともに運動に親しめるようにする。 ・引き続き保健便り等を適宜発行して、健康・衛生面を含め、児童の健康に対する関心や家庭の意識の高揚を図っていく。

	B 6 読書活動の充実に努め、心豊かな児童の育成に努める。 【数値指標】 全体アンケート「先生方は、自分たちのために、学校や家庭で楽しく読書できるよう、工夫している。」 ⇒児童、保護者の肯定的回答率 90%以上	① 校内読書タイムの充実のために、ボランティアや教職員による読み聞かせや本の紹介等の「読書大好き運動」を推進する。 ② 家庭での読書の習慣化を図るために、図書だよりの発行や親子での読書の推奨等、家庭で読書活動を充実させるための取組を考えていく。 ③ I C T機器を活用し、読書活動に関するクラスルームを開設するなどして、児童が本に触れる機会を増やしていく。 ④ 学校での取組を学校だよりやホームページで発信していく。	【達成状況】 肯定的回答は、児童が 88.2%、保護者が 86.0%であった。児童、保護者ともに肯定的回答が目標を下回った。 【次年度の方針】 ・①については、ボランティアや教職員による読み聞かせ、本の紹介等をより一層推進していく。 ・③については、児童会を中心に学校で行っている読書週間の取り組みを、図書だよりや学校ホームページを通して家庭に発信していく。
	B 7 学校の公開や情報の積極的な発信・提供が行われている。 【数値指標】 全体アンケート「学校は、学校便りや学校公開などで、積極的に情報を発信・提供している。」 ⇒保護者の肯定的回答率 90%以上	① 学校だよりや学校ホームページ等により、取組の見える化に向けて、日々学校の様子を発信することで家庭との連携を深めていく。 ② 地域協議会を中心に地域と学校が目標を共有し、一体となって教育活動や環境整備の充実を図る。 ③ 可能な限り保護者や地域住民へ積極的に学校を公開し、地域とともにある学校を目指す。	【達成状況】 保護者の肯定的回答は、95.3%であり、目標を達成した。 【次年度の方針】 ・①②③の取組を継続して行っていく。 ・学校便りや3共通信などに学校ホームページに飛びリンクを入れるなど工夫していく。

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

1. 目指す児童の姿（B1 B2 B4 B5を含む）

【数値指標の達成状況】

・質問 13 項目中、6 項目で数値指標を達成した。

・数値指標を達成していない 7 項目は、A1「確かな学力の育成」、A2「思いやりの心の育成」、A3「粘り強く取り組む姿勢」、A7「宇都宮の良さの理解」、B1「時と場に応じたあいさつ」、B2「きまりやマナーの遵守」、B4「居がいのある学校・学級」である。

【考察及び今後の方向性】

・児童においてはすべての項目で、数値指標を達成することができた。その背景として、教職員が学校教育目標及び学校経営方針の具現化に向け、それぞれの担当学年・学級、校務分掌等に応じて指導を行ったこと。また、児童一人一人が素直に指導を受け入れ、集団生活を通して自分を伸ばそうと努力したことや、仲間を大切にする意識を高めたりしたことが挙げられる。保護者においては数値指標を達成できなかった項目が5つ、地域住民においては2つであった。

・「確かな学力の育成」では、保護者の肯定的回答が目標とする数値指標より 3.4 ポイント下回った。保護者に日常の授業の様子について、授業参観やオープンスクール等を通して、普段行っている児童の学び合いの様子や、話し合い活動など授業の様子を公開していきたい。

・「思いやりの心の育成」では、地域住民の肯定的回答が目標とする数値指標より 6.4 ポイント下回った。令和7年度も引き続き思いやりの心を高める学級づくりを進めるとともに、見守り隊や交通指導員、PTAの方々による登下校指導など、それぞれの方々がどのような思いで、どのような取り組みを行っているのか児童に伝え、その方たちにどのように自分の気持ちを伝えるか考えさせていく。

・「粘り強く取り組む姿勢」では、保護者の肯定的回答が目標とする数値指標より 4.1 ポイント下回った。学校や学級での様々な活動（学校行事や学年行事、学級での係活動、学習など）に対し、児童が目標を持ち、最後まで諦めずに一生懸命取り組んでいる様子を学校ホームページはもとより、連絡帳や電話連絡などでより一層保護者に伝えていく。

・「宇都宮の良さの理解」では、保護者の肯定的回答が目標とする数値指標より 8.7 ポイント下回った。引き続き、築瀬地区や市の伝統的な行事、イベント等への参加推奨に地域協議会と連携を図って取り組んでいく。また、学校での取り組みを授業参観やオープンスクールで公開していく。

・「時と場に合ったあいさつ」では、保護者の肯定的回答が目標とする数値指標より 2.6 ポイント下回った。児童が中心となった「あいさつ運動」の再検討や、家庭や地域学校園、地域協議会と連携を図ったあいさつ運動の実施など具体的な取

り組みをより一層進める。

・「きまりやマナーの遵守」では、地域住民の肯定的回答が目標とする数値指標より 1.4 ポイント下回った。学校教育活動全体を通して、児童のよさを認め、ほめ、励ますことで規範意識の向上に努めるとともに、家庭や地域にも協力を呼びかける。また、地域住民の声や意見を聞く機会を増やしていく、その方法として学校ボランティアでの協力やオープンスクールへの来校などを呼びかけていく。

・「居がいのある学校・学級」では、保護者の肯定的回答が目標とする数値指標より 0.9 ポイント下回った。児童同士の関わりを深め、より良い人間関係を築く基盤となるのは学級である。担任のみならず学校全体で「チーム築瀬」として、引き続き児童一人一人のきめ細やかな指導を充実させるとともに、保護者には児童の様子や活躍、変容を伝えたり、話を伺ったりすることで風通しよく連携を深めていきたい。

2. 目指す学校の姿（B3 B6 B7 を含む）

【数値指標の達成状況】

・質問 14 項目中、10 項目で数値指標を達成した。

・数値指標を達成していない 4 項目は、A11「いじめ対策」、A17「小中一貫教育・地域学校園の取組」、B3「家庭との連携」、B6「読書活動の充実」である。

【考察及び今後の方向性】

・児童においては、1 項目以外数値指標を達成することができた。教職員においては、令和 5 年度に数値指標を達成できなかった「業務の効率化」の項目において、18.0 ポイント上回り、達成することができた。保護者においては数値指標を達成できなかった項目が 4 つであった。

・「いじめ対策」では、保護者の肯定的回答が目標とする数値指標より 6.6 ポイント下回った。引き続き、学校教育活動全体で、いじめのない環境づくり、いじめは許されない行為であることを日常的に指導していく。いじめゼロ強調月間の設定、児童会との連携を図った児童からの呼びかけによる意識の高揚は令和 7 年度も継続していく。保護者には、学年・学級懇談会時や学校便り、学校ホームページ等を通して学校の取組を発信していく。また、連絡帳や電話連絡、懇談会などで、児童の活動を随時知らせていくとともに家庭の様子など情報を交換していく。

・「小中一貫教育・地域学校園の取組」では、保護者の肯定的回答が目標とする数値指標より 3.0 ポイント下回った。一方で、児童、教職員ではともに 3.0 ポイント肯定的回答が上回っている。引き続きこれまでの取り組みを続けていくとともに、各種便りに小中一貫コーナーを作るなど工夫していきたい。

・「家庭との連携」では、保護者の肯定的回答が目標とする数値指標より 1.5 ポイント下回った。個人懇談で話し合う機会を確保したり、連絡帳や電話連絡でこまめに児童のよさや活躍、成長の様子を伝えたりして保護者との会話の機会を増やし、風通しをよくして協力体制を築いていく。学級懇談会では、保護者から話題を提供してもらい、担任と保護者間で話し合う機会を設けるなど、懇談会のスタイルなども工夫したい。

・「読書活動の充実」では、児童が 1.8 ポイント、保護者が 4.0 ポイント、目標とする肯定的回答より下回った。児童には読書活動に関するクラスルームを通して、さらに本に触れる機会を増やしていく。また、読書週間中のイベントなど内容について児童や保護者の意見を活かしながら再考していく。保護者には引き続き、図書便りや学校便り、学校ホームページを活用して、読書に関する学校での取組について発信していく。

全体を通して、今後はこれまで以上により一層、学校の取り組みについて、様々な手段で情報を保護者や地域住民の皆様提供し、本校学校教育の理解と協力を得ていきたい。また、会話をする機会をできる限り増やし、風通しよく連絡を密に取り合い連携を強化していきたい。

7 学校関係者評価

・下校時の危ない行動を見かけることもあるので、地域でも注意し安全を教えていきたい。

・働き方改革やコロナの影響もあるが、様々な行事の縮小などもあり、大人の事情で子供たちの気持ちに蔑ろにされているのでは。子供たちの目標になる行事がもっとあっていいのでは。

・子どもの家にも 100 名以上在籍している状況なので、大人の事情もやむを得ないが、何か行事や催しがあるといい。先日行われた築子連のレクリエーションの行事は親子で楽しんでいた素晴らしかった。

・あいさつ運動や霜月祭は中学生ボランティアが多く集まり、小中の連携が取れていると感じた。

・旭地区 4 校 P T A や地域が連携を取れる基盤はあるところなので、何か地域学校園で連携した催しなど形になるといい。

・学校行事や P T A 活動が縮小すると保護者の来校する機会が減るので、学校と保護者との間に距離ができ学校評価につ

ならないのではない。

・保護者同士の繋がりについても、コミュニケーションがないと誘いにくい。また行事のやり方など見直しを一から始めてもいいのでは。

・築瀬小おやじの会は残存しているが、行事がないので活躍する場がない。以前は地域活動にも力を貸してくれたので良かった。またその機会が欲しい。

・実際の子供たちの姿を見ると、評価に一喜一憂しなくてもいいのでは。子供たちや先生の頑張りは分かる。地域も力になりたい。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

【学校運営】

・児童一人一人がやる気と自己存在感が持てるように、学校全体で児童一人一人を大切にしながら、個を生かし、集団を育てる指導を粘り強く行っていく。

・学校経営に積極的に参画する教職員を育てることを通して、「チーム築瀬」のもと教職員の組織力を高め、活気のある学校、信頼される学校づくりの推進に努める。

・保護者や地域の声を大切にし、学校・保護者・地域の連携を深めていく。また、教育活動の具体的な取組や成果を積極的に発信し、より一層信頼関係の構築を充実させていく。

・学校行事や地域学校園での取組の見直しについては、PDCA サイクルや家庭や地域の声を活かしながら検討を加えていく。

【学習指導】

・児童の学力、学習意欲の向上のため、学習のめあてを毎時間ははっきりさせるとともに、児童の主体的、協働的な学習を意識した授業づくりを継続して行っていく。

・児童一人一人に応じた、きめ細やかな指導の充実を図るため、校内研修を通した教職員の授業力の向上に努める。

・地域の豊かな教育資源の活用や、地域住民との交流を取り入れた体験的な授業を積極的に取り入れる。また、これらの活動を通して、地域のよさや宇都宮のよさについて学習を深めていく。

【児童生徒指導】

・「築瀬小よい子の一日」を全教職員が共通理解し、同一の指導を継続的に行っていく。また、児童にはルールを守ることの大切さを都度伝え、規範意識の向上を図っていく。

・全職員が日常的に児童の様子を注意深く観察し、少しの気付きも逃さぬよう報告・連絡・相談を徹底する。学級や学年はもとより、学校全体での支援や指導を通していじめや不登校の未然防止に努める。

・児童会を中心としたあいさつ運動など、児童が主体的にあいさつできるような指導を更に工夫する。また、中学校との連携や保護者、地域と連携したあいさつ運動など推進していく。

・児童同士がお互いのよさを認め合う活動や機会を設定する。児童が認められることの喜びや、誰かの役に立つ喜びを実感できることを通して、自己肯定感を高め自己有用感をもてるようにする。

【健康（保健安全・食育）・体力】

・児童が健康な生活が送れるよう引き続き、うがい、手洗い、教室の換気など行う。

・交通ルールやマナーを守る態度の向上については、教職員から児童への日々の声かけや、家庭や地域の協力を得ながら粘り強く取り組んでいく。

・学校給食を通して、日常の食事に興味・関心を持ち、マナーを守り楽しく食事をするのが心の健康につながることを指導する。また、SDGs への意識の高揚を図る。

・児童の体力向上、運動習慣の定着に向け、児童が自ら体を動かしたくなるイベントの企画や運動の紹介を行う。また、自分の取組や伸びが分かる運動カード等の活用を継続的に行っていく。